千葉県 TEACCH プログラム研究会

2022 年 2 月 18 日(金)　第 113 号

「森」字・佐々木正美
イラスト・竹蓋伸六

発行：千葉県 TEACCH プログラム研究会広報部
ホームページ：http://www5e.biglobe.ne.jp/~teacch/site17.htm
事務局：千葉県発達障害者支援センターCAS 内　　TEL :043-227-8557

第５回　連続セミナー

「行動上の課題への対応
～行動障害のある方への支援～

千葉県発達障害者支援センター
発達障害者地域支援マネジャー
田熊　立　氏

１２月に行われた第５回連続セミナーでは、千葉県発達障害者支援センターの「発達障害者地域支援マネジャー」である田熊立氏から行動上の課題のある方への支援について具体的にお話いただきました。

「発達障害者地域支援マネジャー」について伺ったところ、発達障害者支援センター等に配置され、各自治体、事業所、医療機関などに伺い、アセスメントや支援ツールの導入や各関係機関の連携や困難ケースへの対応など総括的にコーディネートされる仕事をされているとのことでした。数々の困難ケースへの支援をしてこられた田熊氏の具体的でわかりやすい内容は、受講者の方々からも好評（アンケート結果より）でした。今回のセミナーの内容を以下にまとめました。

行動の問題を減らすポイントは「生活の質の向上」

●**「強度行動障害」**とは、障害支援区分の認定調査項目のうち、行動関連項目が 10 点以上と判定された状態を指す。自分の体を叩く、食べられないものを口に入れる、危険につながる飛び出しなど「健康を害する行動」や他人を叩く、壊す、大泣きが何時間も続くなど「周囲の暮らしに影響を及ぼす行動」など著しく高頻度で起きるため、特別な配慮が必要となっている支援状態にあることを指す。

●**「行動上の課題は様々」**であり、強度行動障害のある方を取り巻く状況として、受け入れ事業所が少ないことがあげられる。福祉サービスで対応できるかどうか難しいケースもある。自閉症の方への支援をスタンダードとして、一人一人の状態やニーズをしっかりと把握して支援することが大切である。千葉県では、平成２６年度より強度行動障害支援者養成研修（基礎研修・実践研修）や令和元年度よりサポーター派遣事業が行われており、日々支援に悩まれている施設職員のための研修やアドバイスなどが充実している。

●**「何とか減らしたい」「安全のため」**と言って長時間の行動制限や多剤による投薬治療、力で行動抑制するなどの「行動の減少」だけを目的とした支援がなされている実状がある。行動の問題は、「行動の減少」だけに目をむけるのではなく、**「生活の質の向上」**を目標に支援することで自傷・他害・破壊・パニックなどの軽減につながる。

●**「ＴＥＡＣＣＨの支援」**を取り入れる。生活の質を向上させるためには、自閉症の特性に応じた生活（家庭、学校、仕事、地域）と学習（成長）の基盤づくりが大切であり、ＴＥＡＣＣＨの考え方や支援方法を取り入れることが有効である。

「生活の質の向上」に向けた支援

●**「生活の質の向上」**とは、生活習慣、仕事、余暇の充実、コミュニケーションの成立を目標に支援の流れを組み立てることが大切である。
●「支援の流れ」は、①アセスメント②学習スタイル③構造化④再構造化で行う。
●**「アセスメント」**は、行動や認知の特性、「氷山モデル」の考え方、ＴＴＡＰ等のパッケージ化された検査、課題分析、コミュニケーションサンプルの方法が有効である。成育歴、好き嫌い、得意なこと、苦手なこと等の把握も必要である。
●**「学習スタイル」**は、「本人がどのように学んでいるか」に目を向けることであり、活かせる強み（マッチングが得意、具体物・絵・写真・文字等、何が一番理解しやすいのか等）や配慮を要する弱み（苦手な音源や人、物があり、距離を離すことで落ち着く等）を様々な場面で把握し、支援の基本とすることである。
●**「構造化」**は、スケジュール、視覚的構造化、物理的構造化、ワークシステム、機能的コミュニケーションの支援（補助代替コミュニケーションを含む）を本人に合わせて支援し、繰り返し修正しながら「再構造化」していくことが大切である。

事例をとおした支援のヒント

●実際に福祉施設で行っている支援を紹介してもらう。共通のアセスメントとして、**「氷山モデルシート」**の活用、様々な場面（作業、休憩、余暇等）での行動の記録、本人にわかるスケジュールの提示やワークシステム、コミュニケーション支援（PECS）の導入等、支援のヒントをたくさん提供してもらった。

千葉県 TEACCH プログラム研究会第6回連続セミナー（実践報告）紹介

演題および発表者

〇八千代キャラバン隊（保護者）様「八千代キャラバン隊の活動の取組について」
〇松本恵衣（施設職員）氏「コロナ禍における施設での支援の取組について」
〇三国寛伸（教職員）氏「特別支援学校における支援の取組について」

自閉症の方たちへの支援を保護者、施設職員、特別支援学校教員の立場から日々のかかわりの中での具体的な支援や取組を発表していただきます。

千葉県 TEACCH プログラム研究会令和４年度セミナーのお知らせ

期日：令和４年度５月８日（日）13：30～16：00（13：00受付開始）
場所：千葉県教育会館大ホール（千葉市中央区中央4―13―10）
演題：『自閉スペクトラム症の理解と支援』（仮題）
講師：門　眞一郎　氏（フリーランス児童精神科医）

４月に新年度のセミナー情報をアップします。

ロンドン大学精神医学研究所にて児童精神医学を研修、元京都市児童福祉センター次長、元京都市発達障害者支援センター長、PECS やコミック会話などを日本に紹介、多くの著書がある第一人者の先生をお招きしてのセミナーです。どうぞお楽しみに。

【編集後記】今回のセミナーで「成人期になってから対応するのは難しく、学齢期の間に①スケジュール②ワークシステム③視覚的構造化のレベルの把握④コミュニケーション手段の獲得は本当に大切」という言葉に一教員、運営スタッフとして TEACCH プログラム研究会のなすべき役割の重さを自覚しました。
以前、田熊先生から「落ち着いている時、問題行動が出ていない時のアセスメントが大切」と教わったことを思い出しました。問題行動ばかりにとらわれるのではなく、環境に目を向けて調整をはかり、構造化を取り入れた支援をしていくこと、「本人の生活の質を向上させる支援」を忘れず、実践していきたいと思います。コロナに負けず一緒に学んでいきましょう！！（吉村）